

2015年3月期 第2四半期決算説明会Q&A

【2015年3月期Q2実績】

Q: Q2の粗利益率が前年同期比・Q1比で共に下がっているが、今後もこのトレンドは続くのか？

A: 粗利益率はプロダクトミックスや売上の地域構成などにより四半期単位で見ると数パーセントは容易に変動する。下期はコストダウンの効果、新製品の寄与、モバイルビジネスの増加などにより原価率は改善し、年度としては、昨年度と同程度の粗利益率になると見ている。

【2015年3月期見通し】

Q: 計測事業の受注は、上期と比較して下期は何が要因で増加するのか？

A: ①ネットワーク・インフラ市場向けにリリースした新製品および、関連する計測需要の獲得
②CAT(キャリア・アクセプタンス・テスト)やPCT(プロトコル・コンフォーマンス・テスト)等、モバイルシステムビジネスの強化、拡大
③LTE-Advanced関連の開発需要拡大

Q: 下期の中国TD-LTE製造ビジネスはどのように見ているのか？

A: 上期は中国ベンダーを含む大手端末ベンダーからの端末製造向け計測需要があったものの、測定の効率化などにより、金額ベースでの伸びは限定的となった。下期は大手端末ベンダーに加え、その後続く中小ベンダーでの計測需要が見込まれるため、裾野を拡大し受注獲得に注力していく。

【その他】

Q: 自社株買いを実施しているが、今後の総還元性向に対する考え方は？

A: 本年度はGLP2014の最終年度であり、その期間の財務状況の改善と利益水準などを総合的に勘案し、2012年度～2014年度の3年間累計の総還元性向が40%を超える目線で実施した。今後も中期経営計画をベースに、総還元性向を検討していく。機動的な実施を検討していくが、毎年必ず実施するというものではない。